

学校教育推進計画

～区民説明会で出された
意見・要望～

○ 緑区の会場で出された「意見・要望」	1
○ 緑区の短冊（意見用紙）に書かれた「意見・要望」	3
○ 美浜区の会場で出された「意見・要望」	5
○ 美浜区の短冊（意見用紙）に書かれた「意見・要望」	7
○ 若葉区の会場で出された「意見・要望」	9
○ 若葉区の短冊（意見用紙）に書かれた「意見・要望」	11
○ 稲毛区の会場で出された「意見・要望」	13
○ 稲毛区の短冊（意見用紙）に書かれた「意見・要望」	15
○ 中央区の会場で出された「意見・要望」	18
○ 中央区の短冊（意見用紙）に書かれた「意見・要望」	20
○ 花見川区の会場で出された「意見・要望」	23
○ 花見川区の短冊（意見用紙）に書かれた「意見・要望」	25

学校教育推進計画区民説明会（緑区）意見・要望記録

平成20年6月29日（日）
鎌取コミュニティセンター

- 「自ら学ぶ、自ら考える」といった目標はよい。そのための具体的な手立ての一つに、「学校図書館の充実と公共図書館の充実」があるのではないかと感じている。第2次5か年計画が見直されたときも、学校図書館の整備費は削られてしまった。また、図書館の設置も先送りとなった。朝読書等により、千葉市の子ども達がたくさんの本を読むようになってきたのは本当によいことであるが、学校図書充足度については、60%の学校しか国の基準を満たしていないという現実がある。また、昨年まで小学校に1名配置されていた指導員も、今年は2校に1名となってしまった。その分、中学校に配置されたが、抽象的な目標だけでなく、具体的な予算措置も含めて計画を作っていただきたい。
- 学校教育には負の部分、他の生徒への暴行や度を越したいじめ、教師への暴行、授業妨害なども大なり小なりあるだろう。少し前に、国立教育政策研究所の提言として「ゼロトレランス」というものがあった。これに対して、千葉市としてはどのように受け止めているのか。
 - 「毅然とした態度で、とことん面倒をみる」ということが大切（会長）
- 「とことん面倒をみる」ということは、情熱と愛情ある教員集団をいかに醸成していくかにかかっているのではないかと。この点、千葉市としてはどう考えるか。
 - 千葉市の教育委員会でも、規範意識の醸成は大切な課題ととらえている。昨年度、生徒指導調査研究委員会の中でも課題とし、どのような場面で規範意識を育てていけばよいのかについて、現場の先生方に大学の先生も交えて研究をさせていただいた。そして、報告書を生徒指導の担当者の集まりで配布し、今までも行っていることであるが、更に強化して取り組んでほしいと呼びかけている。ゼロトレランスという考えもあるが、保護者を交えて、徹底的に話し合って、これからの生活についてよりよい方向を見出していけるようお願いをしている。教員については、教員に求められている資質は、教育に対する情熱、指導力、そして何よりも人間性の3つだと言われており、それを軸にしながらさまざまな研修の場で伝えていくとともに、優秀な教員の採用に努めている。（指導課）
- 初めに教育だよりの臨時号を見たときには、「こんな子どもがいたら見てみたい」と思うほど、美辞麗句が並んでいるという印象を受けた。「夢と思いやりの心を持ち、チャレンジする子ども」というのは、「子ども」を「先生」に置き換えてもらいたいという思いが強かった。学校教育について考えると、学級崩壊等の問題を見ると、先生方のご苦労と力をひしひしと感じる。さまざまな問題が、先生方の肩にかかっている。教育や人を育てるということは、人と人とのつながりだと思う。先生に余裕がないと、子どもと接していけないし、また、先生の力が大切になってくる。先生方に、さまざまな社会を見て戻ってもらうなど、実体験に基づいた研修を積んでいただきたい。それが、保護者との壁を壊していく大きな要因になるのではないかと。

こうした素晴らしい計画をつくり、区民説明会を開いていくのであれば、千葉市というくくりではなく、地域性なども考慮した個別の学校経営を目指してほしい。

- 「学校教育」という閉ざされたカテゴリーでは限界があるのではないかと。もう少し広い枠組みでとらえるとよいのではないかと。

学校の荒廃の問題は、親の問題も大きいのではないかと。学校の教員だけが負うのではなく、教育委員会の中だけでない取り組みも大切ではないかと

受験と関係のない科目について、具体的な進め方についてお聞きしたい。

→ 市民部局と教育委員会の連携、学校図書館と地域の図書館との連携等、各機関との連携強化に取り組んでいくようにしたい。また、学校支援地域本部のように、学校を支援していく仕組み、学校を開いたものにしていく取り組みも考えていきたい。(会長)

- 放課後子ども教室に関わっているが、現在、各地域によってその取り組み方はさまざまである。地域の年配の方々等の協力を得て積極的な取り組みをしている地域もあるが、おゆみ野地区は新しい住民が多く、地域の協力を得るのが難しい。地域の協力を得るにも、どのような方なのかがわからず、不安な面もある。地域の中でグループなどを作り行っていくと、学校の助けにもなるし、参加者同士も得るものがあるという雰囲気を作っていただけるとありがたい。家庭の教育力といわれても、何が正しくて何がいけないこともわからない親も多い。学校に対して何か言いたくてもなかなか言えない場合も多いので、ワンクッションおけるようなものがほしい。

→ 個人的には、学校支援地域本部を本気になって作りたい。そして、学校を支援し、教師の負担を軽減することで、子どもと正対できるようにしたい。文部科学省に頼らず、自前で行うくらいの気持ちで行ってきたい。(会長)

- 私たちが子どもの頃は、夏休みには毎日のように学校のプールに行っていた。しかし、今は夏休みの水泳指導がなくなってしまった。保護者会が中心となつての開放も、今年度から予算の関係でなくなった。近所の市営プールもいっぱい。子どもの体力が落ちているのに、このようなことは逆行しているのではないかと。また、塾についても、昔はできる子・できない子の居残り指導等が行われていたが今はない。中3の娘の英語の教科書を見て、絵の多さ、薄さ、後ろには英単語の意味が日本語で書かれていること等に驚いた。また、受験に関していうと、特色化選抜の問題はとても難しく、中3の英語の教科書は理解できても、特色化選抜の問題は難しい。このような状態で塾へ行くなどと言っても、子どもの方から「塾に行かせてほしい」と言ってくる。現実問題として、子どもが忙しくなる原因は、そのようなところにあるのではないかと。

- 今日、「地域としてどのような協力ができるのか」を聞きにきた。今、高齢者の方のパワーにはすごいものがあり、その力があちこちにあふれている。今回の計画には、さまざまなことが書かれており、これがきちんとできれば非常によくなると思う。せっかくの計画が絵にかいた餅とならぬように、何をしたらいいのか。地域ではこういうことをしっかりやってほしい。学校ではこういうことをしっかりやる。行政は、こういうことをやる、というように、絵にかくだけでなく、実行の方に力を入れて行っていただきたい。

学校教育推進計画区民説明会（緑区）短冊に書かれた意見・要望

平成20年6月29日（日）
鎌取コミュニティセンター

<子どもたちへの願い>

- ・ 将来の夢や私たちの未来について瞳を輝かせて語ることをできる人に育ってほしい。
- ・ 失敗を恐れない子供、失敗を認められる子供を育てよう。
- ・ 君たちもいつか家庭をつくる！？よい家庭をつくってね。
- ・ 瞳輝く子どもたち
- ・ 健やかな体に健やかな心
- ・ 思ったことや意見を自然に言える場を設けていきたい。コミュニケーションのとれる大人に成長してほしい。
- ・ ごはんをたくさん食べる子に。
- ・ 思い出に残る、小中学校時代を過ごさせたい。
- ・ 子どもたち一人一人が自分のよさや可能性を伸ばせるように！
- ・ 一人一人の子どもが自分らしく生きていけますように。
- ・ 人の話をしっかり聞き、意見の違いがわかる子、自分と違う気持ちも大切にできる子になってほしい。
- ・ 子どもも大人も夢を持って毎日楽しく過ごせますように。
- ・ 子どもたち、一人一人が毎日充実した学校生活が送れますように。
- ・ 自分で考え、自分で決断、実行。シュート！
- ・ 朝ごはんをしっかり食べましょう
- ・ 子どもたちがたくさん「大笑い」できますように。（指導要領の改訂により授業時間増が実現されると、ますます放課後時間が減ることになり、子どもの人間力が弱まるのではないか心配）
- ・ 自分の気持ち・考えを人に伝えられるようになろう。
- ・ 子どもたちには、もっと競争心を持ってほしい。
- ・ 自己責任・自己コントロールを持ちましょう。

<家庭・地域への願い>

- ・ 無関心よりも、見守ることのできる地域づくりをしていきたい。
- ・ もっと家庭の参加を！！
- ・ 朝三合、夜三合、ご飯を食べて元気に過ごす。面倒だと思わず、和食を続けていきたい。
- ・ 明るく元気で思いやりのある子どもが育つよう、学校・家庭・地域がしっかり手をつなぎましょう。
- ・ 子どもは過保護で育てましょう。過干渉はいけません。
- ・ “思いやりのある子”を目指し、できることからコツコツと努力していきましょう。
- ・ 人間が成長していくためには「学校教育」「家庭教育」「地域教育」が必要。まず第一は「家庭教育」だと思う。親が常識を持って教育しましょう。
- ・ 学校の思い、家庭の思いは同じはず。お互いの理解が深まり、より子どもたちが成長できますように。
- ・ 子どものマナー教育は学校というより、家庭だと思う。女性の社会進出もよいが、まず、産んだ子どもを責任持って育てることが一番大事だと思う。

- ・ 子どもをターゲットにする前に、大人の教育も
- ・ 子どもに白い目で見られてもいいさ。大人がまず「シュート」を打とう！
- ・ 今の悪い大人社会から、子どもたちが思いやりのある人に育てるのは、私たち大人の責任です。
- ・ しつけの中に厳しさも
- ・ 学校に多くを望む以前に、家庭での役割を見直すべきだと思う。
- ・ もっと保護者の皆さんに子どもの教育に対して積極的に向き合ってほしい。

< 計画に関する要望 >

- 教育環境について
 - ・ クラスの数人のわからない子にも目を向けられるシステム、家庭でのフォローの仕方、指導マニュアルの充実をお願いします。
 - ・ 全市全学校38人学級の実現を。
 - ・ 学校の施設・設備の充実を。例えば、校舎内にプレイルーム等のほっとする空間など。
 - ・ 子どもたちが自由に遊び回ることができるような環境作り
- 地域との連携について
 - ・ なんでも学校ではなく、地域にお願いすべきことをはっきりさせていくこと。
 - ・ 「クリーン＆グリーン」を復活させてほしい。草の根活動をして、「セーフティウォッチャー」も定着してきたので、縦のつながり、継続的（子供の成長）な地域とのつながりなどにもいいし、地域の目も行き届くと思う。
 - ・ 資格がなくても、時間があって、子どもに寄り添って助けてあげたいという大人は多くいます。ボランティアで、気持ちのある大人をどんどん学校教育の中に入れて活用してください。
 - ・ 地域に住む住人が学校ごとの特色を感じられるような学校をつくってほしい。
 - ・ 子どもたちがよく学び、よく遊び、自分を発揮できる学校・地域をつくりたい。
- 部活動について
 - ・ 部活動顧問の先生が、もっと子どもたちの意見を聞く雰囲気づくりを。
 - ・ 部活動をできる、人の配置を実現させよう。少ない学校こそ、子どものことを考えてほしい。
- 予算について
 - ・ 予算の裏づけが明記された計画をつくってほしい。
 - ・ 教育予算を減らさないで。
- その他
 - ・ 大変立派な計画。是非、実のあるものにしたい。
 - ・ 子どもたちが伸び伸びと学び、生活できる千葉市となりますように。
 - ・ 本当に生徒が自分で考えて行動できる学校になるといい。
 - ・ 笑顔があふれ、いきいきとした子どもがいっぱいの千葉市・学校となるよう頑張ってください。
 - ・ これから成長する子どもたちが、平和な時代に生活できますよう見守ってください。
 - ・ シュートを投げ、失敗おそれる教育現場
 - ・ 学校を開いてほしい。

学校教育推進計画区民説明会（美浜区）意見・要望記録

平成20年7月6日（日）

高洲コミュニティセンター

- 「夢と思いやりの心を持ち、チャレンジする子ども」というのはよい。ただ、「思いやりの心」も大切だが、「チャレンジする」を強調してはどうか。国際化に向けて、自分の主張をしっかりと伝えるようになってほしい。
- 学校は知力、マナーは家庭。ぜひ国際化に対応できる子ども達を育ててほしい。
- 料理・掃除・洗濯、また、日曜大工などものを作ることを今学校で教えているのか。もし、されていないのであれば、行っていく必要があるのではないかと。
→ 小学校5・6年生に家庭科があり、中学校でも現在は男女とも家庭科の授業を受けるようになっている。（会長）
- 農山村留学で「自分たちで食事をつくる」というプログラムを実施したとき、子ども達はとても上手に行っていた。「自分達でつくる」ということをしなければいけない家庭環境の子どもも多く、そうした躰がしっかりとなされていたからであろう。学校でも家庭科での実習や総合学習などを通して行っているが、これからも学校と家庭・地域とが連携して行っていければと思う。（学校長）
- 今、エネルギー消費に関する「環境問題」等を考えると、これからは大家族という方向で考えていくことが必要であろう。その中で、「お年寄りを大切にする」等、モラルを具体的なことで教えていくことが大切になってくるだろう。
- 私は母と一緒に暮らしている。長男は、小さいころからおばあちゃんに優しく育てられているので、おばあちゃんへの思いやりの心は自然に身についているように思う。一緒に暮らすという長い期間を経て身につくものであり、口で言っただけではなかなか身につくものではないだろう。
- 少子化により、学校の先生の数も少なくなり、部活も限られてしまう。子ども達にはいろいろなものに関わってほしいという希望はあるが、いろいろなことに挑戦できる状況ではない。地域で何かサポートできる状況があるとよい。子どもには、もう少し積極性がでてくるとよいと思う。
- 少年サッカーのコーチをしているが、サッカーの現場でも「コーチが来ないとただらとしてしまう」ということが見られる。コーチがくると、よく動くのだが。アメリカの子どもなどは、コーチがいようがいまいが関係なく、自分たちで一生懸命動いている。日本は、「言われたことを言われた通りにする」ということは世界一かもしれないが、「考えて行動する」ということに関しては遅れているのではないかと。それを変えようとするとき、保護者の理解を得ることが難しいのではないかと。大人が口を出すと、子どもは自分で考えなくなる。大人が口をつぐみ、一歩遠ざかれば、子どもは自分たちで考え、動くようになっていくのではないかと。
- 放課後子ども教室に関わっていると、学年の特色など子どもの様子がよく分かる。また、先生がいらっしゃらなくとも、「地域のおじさん・おばさんが来てくれて何かをやってくれる」ということで、だんだん慣れてきて、途中であっても挨拶をしてくれるようになってきている。子育ての終わった方など、たくさんの方に力を借りているが、「週に1度、学校に来ることが楽しみだ」という声も聞き、

地域で子どもを育てることができてきているかなと思っている。やっていることをもっとPRすると、協力者が増えるのではないかなと思う。初めは、保護者の方がお手伝いすることに躊躇されていたが、今は、様々な特技を持った方にご協力をいただき、子ども達は放課後により時間を過ごせている。今は週1時間だが、できれば毎日行っていきたいとも思う。しかし、大人のほうに拘束されてしまうという悩みもある。いずれにせよ、放課後の時間を過ごした子ども達が気持ちよく帰っていくので、私達も学ばせてもらっている。

- 私たちの学区では、学校適正配置の話があり、自分たちの通っている学校が無くなってしまうのではないかなという問題がある。大規模校の方がよいという話もあるが、小規模校にもよさがある。親としては、小学校に関しては地域の近くにあった方が安心。規模は小さくとも地域の中で友だちと仲良く育ってほしい。中学校になると、部活動のことや社会性といったことも考えると、ある程度大きいほうがよいのかなという思いもある。この地域は、自転車のモデル地区になるという話もあり、自転車専用道路ができれば、自転車を使って通学させてもよいのかなと思う。小規模校のよさとしては、自分から率先して意見を述べることの少ない子どもも発言ができるし、学校行事にしても全員が役割を担っていかないとできないため、それぞれが役割を担うことになる。そうすると、「この子はこんなこともできるんだ」といった発見がある。
- お母さん方に会って感じるのは、「公立中学校に対してあまり希望を持っていない」ということ。「自分の子どもを東京の私立の学校に行かせたい」という人が多い。そこで、特色のあるよい私立の学校を千葉市、美浜区に誘致してほしい。地元にはいい学校がないと流出してしまう。公立の場合、話が遠く、なかなか物事が変わってこない。私立の方がはやすい。
- 先ほど経済力の差の話があったが、私は経済力の差ではなく、親力の差ではないかなと思う。私は両親に大学を出させてもらったが、私の両親は尋常小学校の卒業。しかし、家庭の運営に関しては、両親のほうはずっと優れていたのではないかなと思う。「子どもの前では夫婦喧嘩をしない」「少しのことでは動揺をしない父親」など。残念ながら、今の親はそのようなことを学んでいないのではないかな。
- 戦後、社会とともに教育も変わってきて、「子ども達の意見を聞く」ということを自分たちの家庭でも取り入れてきたが、その点について反省すべき点もある。戦後の教育のあり方が全体的にいいとは言えない。戦後、変わってきた面と変わっていない面とがあり、また、変わっていない面についてもよい面と悪い面がある。先ほど、核家族のことも話題になったが、2世帯が共に暮らせるような住宅が買えるようにならないと変わっていけない。もっと「生きるということ」を大切にしたい教育を行っていくことが大切ではないかな。
- 少子高齢化のベースには、「女性が子どもを産まない」ということがあるだろう。また、離婚の問題もある。社会として、「女性が安心して子どもが産める」「育てられる」というような社会をつくっていく必要があるだろう。学校も、「義務教育が終わったらあとは関係ありません」ということではなく、授業が終わった後でも公的に面倒をみていく、といったことが大切ではないかな。
- 私が地域で感じるのは、「もっと地域で子どもに声をかけてほしい」「挨拶をしてほしい」ということ。朝、散歩をしている時に子どもを見かけたときなどは、ぜひ挨拶をしてほしい。

学校教育推進計画区民説明会（美浜区）短冊に書かれた意見・要望

平成20年7月6日（日）
高洲コミュニティセンター

<子どもたちについて>

- ・ 子供同士のコミュニケーションのとり方も管理化されてうまくいかなくなっている。学校に登校してこない子どもたちも多い。
- ・ 元気な子どもに育てる施策を
- ・ 希望のある子どもたちがたくさん増えますように
- ・ 考えられる子どもが育ちますように

<教育環境について>

- ・ 学校も保護者もゆとりがなく、互いに認め合い、信じあう関係が薄れてきているように思える。子どもが中心になるような教育をしてほしい。例えば、争いがあった時に、子供同士でとことん話し合い、納得できるようになってほしい。
- ・ 生徒がはっきり言える学校、先生が保護者にはっきり言える環境、保護者が節度ある言動
- ・ 夢を持って学べる学校生活が送れる環境づくり
- ・ 子どもの教科担任が1年間に数回変わった。教師に恵まれるかどうか、運であってはいけないと思う。
- ・ プール開放が中止になって残念。事故を教訓として再開できるようにしてほしい。
- ・ 失敗を認める環境は幼稚園からほしい。
- ・ 「夢と思いやりの心を持ち、チャレンジする子ども」を育成するための十分な教育予算の増加を望みます。
- ・ 学校は学力の養成をメインと考える
- ・ 国際的に通じる児童・生徒の教育の充実

<子どもの居場所について>

- ・ 子どもたちが安心して遊べる居場所づくりが大切。
- ・ 子どもたちが安心して遊べる居場所づくり。第三の大人として、いろいろなこと（もの）にチャレンジできるように見守っていきたい。
- ・ 学区に関係なく、子どもたちが集まって遊べる屋内の施設があるといい。大勢の子どもたちと関わり、子どもでルールを決めて遊べる場所が必要。

<地域との連携について>

- ・ 地域に在住・在勤の方の力を借りるシステム（土・日授業等）の採用
- ・ 高齢者の力を児童教育に借りる方策（安全・課外授業等）の検討ができないか
- ・ 学校・家庭・地域（育成など）で子どもを見守り育てていきたいと思う。
- ・ 地域のボランティアとして、子どもたちが元気に過ごせるように協力したい。

<家庭教育について>

- ・ 両親が仲良く、けんかをしなければいい子が育つ
- ・ 千葉市として、特色のある教育を企画してほしい。

- ・ 今の親は何を願って子育てしているのかと思う。

< 適正配置について >

- ・ 学校適正配置について懇話会ではどのように考えているのか。少人数でもいいところがある。地域に学校がなくなること、住民は不安を感じている。長い目でみてほしい住民が増える可能性がある。懇話会の報告ははじめてか？
- ・ 小規模校のせいか、先生の負担が大きく、忙しすぎる。ゆとりを持つ時間が増えることで教育推進のあり方も変わってくると思う。

< その他 >

- ・ 公立の小学校に期待しないという保護者がいる状況を学校の先生は知らない。もっと敏感な先生を集めてほしい。能力アップはまず教員育成から。
- ・ 成績のいい子は東京の私立中学に行ってしまう。良い私立中学を誘致してほしい。
- ・ 現在の日本における課題は、環境問題、治安の悪化、家庭崩壊である。解決策は、大家族の復活、男女の社会的役割の整理等。そのために、教育では、家事（掃除、洗濯、料理、祖父母の面倒等）、専業主婦の役割とその重要性を子どもに知らしめるべきである。

学校教育推進計画区民説明会（若葉区）意見・要望記録

平成20年7月12日（土）
都賀コミュニティセンター

- 6年生の孫がいるが、担任の先生がえこひいきをする。役員をしている親の子どもの声は聞くが、孫が先生に何かを言っても無視されてしまう。子どもの心を一番傷つけるのは、そのようなことではないか。どのような家庭の子どもであれ、偏見のないようにしてほしい。
子どもには、非常に素直な子もいればそうでない子もいる。中学生の職場体験を受け入れているが、学校で教えられたことをその通りに言う子もいれば、自分の言葉で話し、質問をする子もいる。
学校の先生方、教育委員会の先生方お願いします。子どもの心を無にすることなく、子どもの心に応えてあげてほしい。
- 今日は、とてもひきつけられるよいお話を聞くことができた。子どもをめぐる教育上の大きな問題として、「家庭が大事」とよく言われるが、なかなか具体的な話には発展していかない。幼少の頃からの親との交流の中で教えられることが、その子の将来にとって大きな意味を持つ。今、親との生活が時間的にも減っている中で、「どのように育てるのか」というのは非常に大きな問題である。ところが、親に対してそういう情報を与えるチャンスは非常に少ない。そこで、大学の教員養成過程の中で、学校のことを理解してもらうと同時に、親に対してもしっかりとした対応ができ、親を望ましい方向へ変えていけるような力をつけてもらえるとありがたい。
- 娘が小6のとき、担任の先生と仲が悪かったが、親は出て行かずに見守っていた。10年前と今では、だいぶ変わってきて、学校の先生も大変だろう。
- 最近の先生方や大人は、挨拶ができない。地べたに座っている子ども（地ベタリアン）がいても注意をしない、といったことを感じている。
- 大学生の子どもが、「教育学部は暇でいいよな」と、言っている。その暇な時間を将来先生になるために役立ててほしい。
- 今日は貴重なお話をたくさん聞くことができたので、まずは自分の家から見直していきたい。また、ご近所のこと・地域のことにも目を広げていきたい。
- 近くの学校（坂月小）の校長先生は、毎朝交差点で子ども達を待っていてくれる。セーフティーウォッチャーの活動をしているが、最近子ども達がよく声をかけてくれるようにもなってきた。小さな学校であるが、先生方にもがんばっていただいております、地域一体となって取り組んでいる。
- 市の教育委員会から地域におろされてくることについて、それを受け止める側として疑問に感じることもある。「わくわくキャンパス」は、どうして子ども達を家庭に帰さず、4時30分まで学校におくのか。また、ボランティアの募集等について学校に仕事をおろしているが、教頭先生が大変苦労している。今年から入ってきた学習補助は、地域でやらなければいけないことなのか。現職のプロの教員がやればよいのではないかと。あと、セーフティーウォッチャーの事務局等を学校の教員にさせない方がよい。2～3年で移動する校長先生・教頭先生に持続性のあるボランティアセンター的なことを

任せるのは大きな負担になろう。そうしたことが本当に大事であるなら、自治会や育成委員会等を使い、学校の先生には、子どもに向き合い、子どもの教育に専念してほしい。

→学校支援地域本部を本気でつくっていききたいと思う。(会長)

- 私たちの地区では、7年前に子ども支援センターを育成委員会の下部機関としてつくっている。しかし、教育委員会の当時の課長からは「育成委員会をつぶすものになるから賛成できない」と言われ、理解してもらえなかった。そこで、地域でやることとし、公民館を会場に平成14年から行っている。他に例もないことであるため悩みも多く、また会長にもお話をお伺いしたい。

- 育てたい子どもの姿として「思いやりの心をもつ」と挙げられているが、「思いやりの心」を育てるのは、勉学では難しいだろう。3月に学校教育推進計画が決定されるときには、もう少し踏み込んだ「具体的に何をするのか」というものが出るのか。

→3月には、具体的な施策を出す予定です。(会長)

- 青少年育成の面では、「情報化社会への対応」が大きな柱となっている。最近は携帯電話の所持率も高くなってきている。「情報化社会への対応」について、今後学校教育の中でどのように行っていくのか。

→情報モラル教育についてはとても重要なことだと感じている。現在も分かりやすいコンテンツを開発し、各学校で情報モラル教育を行っていけるよう準備を進めている。(教育センター)

学校教育推進計画区民説明会（若葉区）短冊に書かれた意見・要望

平成20年7月12日（土）
都賀コミュニティセンター

<子ども達への願い>

- ・ 責任の所在をはっきり示せる大人になってほしい。
- ・ 世界中の子ども達が幸せで、平和に暮らせますように。
- ・ 出すぎた杭は打たれない。そんな子どもが育ってほしい。

<説明会の感想>

- ・ 学校・地域・行政が、子ども達のために多くのことを考えてくれているのだと感激した。親もしっかりしなければと思った。
- ・ 市教育委員会の積極的な施策がよかった。この会もそのひとつ。いい話し合いの場だったと思う。
- ・ 「千葉市らしい・・・」というが、その「らしさ」とは何か。
- ・ これからは、失敗は3度目まで我慢し、4度目に怒ることにします。
- ・ 明石先生の講演会を、また是非実施してほしい。

<家庭・地域について>

- ・ 親たちが現実に追われすぎていて、子どもの将来を考えて育てようとするのが少ない。
- ・ 大人から子どもまで地域のちょっとしたふれあいの中から感動が生まれ、共育が生まれるのですね。
- ・ 人と人とのつながりが温かい社会が復活しますように。
- ・ 家庭でも学校でも過保護ではないか。
- ・ 親や教師は子どもに勉強ばかりを求めないでほしい。
- ・ 今の保護者は、学校に全てを任せて頼りすぎている。もっと自分の子どもに関わるべきではないか。
- ・ 近所の大人という形で関わっていきたい。
- ・ 子ども達を大切にしよう。
- ・ 自ら考えているか、自ら学んでいるか、自ら行動しているか、大人みんなに問いたい。
- ・ 学校教育で地域との協力をどう得るか。
- ・ 大人のモラルと子どものモラルが乖離している。
- ・ 保護者の学校に対する意識の改善が必要で、もっと学校に参加できる環境づくりが大事だと思う。

<学校・教師について>

- ・ 学校では、できる子もできない子も勉強できる場であってほしい。
- ・ 児童生徒の自主性を重要視してほしい。
- ・ わかる授業を目指して、子ども達の個々の学習能力に応じた指導を充実してほしい。
- ・ 中学校は、もっと受験に対応した指導・学習にも力を入れてほしい。子どもは塾に行くのが当然という気持ちが強いようだ。
- ・ 厳しいことを言える親、厳しいことを言える教師。こんな空気をつくるのが急務だと思う。

- ・ もっと社会のルールを教えてほしい。
- ・ モンスターペアレントにもきちんと対応できる先生になってほしい。

< 教育環境について >

- ・ 給食費を払わない親の法的措置をとってほしい。
- ・ 学校施設の格差をなくしてほしい。
- ・ 38人学級の校長裁量を広げてほしい。
- ・ 子の心親知らず、親の心子知らず。
- ・ 重点的に取り組むべき事項のうち、行政の部分をまず、最初に取り組んでほしい。
- ・ 教師がしっかりと教育に専念できるように、教師の数を増やすとともに、事務的な仕事をサポートする人も入れるようにしてほしい。教師個人の資質にだけ頼るのではなく、仕組みも整えてほしい。
- ・ 地球環境を大人と子どもが共に考え、活動できる場があるといい。

< その他 >

- ・ 素敵なトライアングルで温かな音色を。
- ・ 明日の子ども達のために、よりよい教育を今こそ。
- ・ 思いやる心やマナー・ルールを守ることは、遊びを通して習得することが一番だと思う。
- ・ 夢を育てる
- ・ 戦後教育を反省し、見直すべき。
- ・ ボランティアは平等にされないことがあったのか。
- ・ 平成18年3月の新聞記事を読んだ意見。学校では、下の者が長に対して指導できる場所なのか。

学校教育推進計画区民説明会（稲毛区）意見・要望記録

平成20年7月13日（日）

穴川コミュニティセンター

- 大人が育っていける社会だといい。また、卒業生が下級生に進学についてのアドバイスをしたり、中学生が幼稚園生の面倒をみたりするよういろいろな体験ができる組織づくりやプログラムがあるとよい。
- 今の子ども達には、もっと自信を持ってほしい。また、大人はもっと広い目で見てあげてほしい。
- 小2の娘がいるが、友達との関わりが変わってきているように感じる。グループ意識が変に大人びて、30・40年前には考えられないようなところがあり、家庭の中でも頭を痛めている。
- 子どもが時間に縛られていて、「塾に行くと友達がいって楽しい」と言う。自然と戯れる時間を小さい頃から大切にしたい。
- 学校教育推進計画の中に「人権に関わること」をぜひ入れてほしい。小さい頃から「自分はとても大切な人間だ」という意識があれば、他の人に対しても優しい気持ちになることができる。小さい時から人権意識を育てていくことは、子ども達の未来・将来のために必ず役に立つはず。「人権意識」を千葉市の子ども達に育てていくための施策をぜひ考えてほしい。
- 小1の親。現在、机の上の教育だけでなく、さまざまなことを行っているのはよい方向であろう。しかし、机の上での勉強時間が減ってしまっているのはどうか。また、できる子・できない子へのフォローをしっかり行っていないと、公教育への不信が高まってしまうだろう。あと、様々なことをやるにあたり、その準備に教師が多くの時間をとられているのではないか。学校長は1～2年で異動するのではなく、もっと腰を据えて学校を運営していけるようにしてほしい。
- 計画策定の視点に「点検と見直し」という項目がある。素晴らしい計画であると思うが、この計画をどう評価し、どう点検し、どう見直していくのか。
→今回は中間報告であるが、最終的な報告では評価の項目も出していくようにしたい。（会長）
- 放課後、子どもルームに入っているが、4年生になると入れなくなる。そうした時一番心配なのが、放課後や夏休みの過ごし方である。今は子どもが安心して過ごせる場所も少なくなっているため、個人としては「放課後の居場所づくり」に関心がある。計画の中では、「放課後の居場所づくり」が「家庭・地域」の中に入っているが、行政も積極的に関わってほしい。学校の校庭等をもっと有効に活用できるとよいのではないか。
- わかっていても手を挙げない子が5・6年生から増える。その原因の一つは、クラスの中で役割分担ができてくることであろう。子ども達は、周りの空気を読み過ぎるくらいよんでいる。リーダーになる資質を持った子は、積極的に発言する子になっていく。また、全体の中ではなかなか発言できなくとも、5・6人のグループの中であれば積極的に発言できる子もいる。リーダーになることも大切だが、それだけでなくリーダーを支えるよいフォロワーになる大切さも訴えかけてほしい。

- 9年前に千葉市へ越してきた。以前住んでいた市では、校庭開放委員という組織や、小さな子どもを抱えていてもいろいろなことを学べる機会があった。今、子どもを支えていくべき大人が学んでいく「大人の教育」が大切ではないか。
- 3人の子どもがいる。兄は農山村留学で長野県へ行き、とてもよい経験をさせていただいた。しかし次の年には、鴨川になってしまった。今は農山村留学を長野県で行っていないのか。
→ 今も、長野県で行っており、今年も23校の小学校で、1,000人ほどの児童が長野県でお世話になる。本来であれば、市内の6年生全員を長野県に連れて行きたいが、受け入れ等の問題で難しい面もある。長野県で行うかどうかは、学校の希望を聞きながら決めている。(指導課)
- 「放課後の居場所教室」の担当をしている。昨年、お泊り会を実施した。とても好評で、今年も実施することになったが、教育委員会でストップがかかり、実行するまでに時間がかかったという経緯がある。そうした体験をもっと積極的にやっていければと思う。

学校教育推進計画区民説明会（稲毛区）短冊に書かれた意見等

平成20年7月13日（日）

穴川コミュニティセンター

<子どもへの願い>

- ・ 千葉市の全ての子ども達が CAP（子どもへの暴力防止プログラム）ワークショップを受けられるようになりますように。
- ・ 子ども一人一人がそれぞれに自分の目標を持って、それを周りの大人が手助けして、夢を実現できる地域になりますように。
- ・ 規範意識をしっかり持ち、ルールを守れる子どもを育てたい。
- ・ 日常の細かいことを考えてする力がなさすぎる。訓練すればできるようになるのではないか。
- ・ 親子とも夢と思いやりを持ち、一緒にいる時間が増えて、チャレンジできますように。
- ・ 外遊びの楽しさをもっともっと体験しよう。小さいときの遊びは“金”なり。
- ・ 失敗から学び、たくましく再びチャレンジし続け、その経験を人のために役立てる人になってほしい。
- ・ さまざまな体験をすることにより、心豊かな大人になってほしい。

<子どもの居場所について>

- ・ 子どもの遊び場を増やしてほしい。
- ・ 子ども達が遊べる場所、自由に笑ったり、泣いたり、けんかしたりできる時間が増えますように。
- ・ 子どもの居場所づくりに力を入れてほしい。
- ・ かつては母親に時間的余裕があったが、現在は家庭の経済状況によってはパートに出ざるを得ない。その結果、子どもが孤立しがちになるので、子ども同士のつながりをつくるのが大切。東京の児童館のような居場所を千葉市にもつくってほしい。
- ・ 子ども達が安心して遊べる場所と児童館がほしい。
- ・ 子ども達が、安心して思いっきり遊べる場所がほしい。

<周囲の大人について>

- ・ 大人がもっと大きな心で子どもを育みたい。
- ・ 子どもと大人が安心して暮らせる地域を目指して、子どもに第三の大人がどんどん関わってほしい。
- ・ 大人も長い目で子ども達を見守れる広い心を持ちたい。
- ・ 子ども達がぶつかり合い、触れ合って育つように、大人も大人同士で育ちあい、互いの良さと良さをあわせて純度100%の良さを共有できるといい。
- ・ 子どもは周囲の大人を受け入れている。だからこそ、「大人は何を行うのか」を考えるのが順序として先ではないかと思う。
- ・ 第三の大人（社会教育）に対し、保護者の理解を得られるようにして欲しい。

<教育環境について>

- ・ 教育環境の充実ということで、男女同室着替えの全面解消してほしい。全ての学校に更衣室を設置してほしい。

- ・ 子どもが健やかに元気で育つ環境をつくってほしい。
- ・ 子どもの数が減って、学級数も少なくなり、多くの友達とふれあう機会もなくなっている。学校の小規模化も進む中、少ない子どもを多くの人で見てあげられるシステムはできないか。
- ・ 学習をする環境を整えてほしい。(光化学スモッグが出て窓を閉めた中、扇風機の温風では、気分が悪くなってしまし、とても学ぶ環境ではない。)
- ・ 小学校の副担当は是非必要だと思う。
- ・ 校庭開放もやり方次第で活用できることは確かだと思う。今の開放委員の仕組みとは別のほうがいい。
- ・ 校舎の耐震補強の早期実現をお願いしたい。

< 学習について >

- ・ 勉強時間をもっと増やしてほしい。
- ・ 定期テストは、子ども（生徒）の評価としてではなく、先生（教員）の評価として、点数の低い子どもへの学習の手助けのきっかけとしてほしい。
- ・ 塾に行かなくても学力がつくようにしてほしい。
- ・ 放課後を利用して、補修授業を強化したり、塾講師の授業への参画を進めるなどして、学力の向上を目指してほしい。
- ・ 土曜日の授業の復活を希望する。補修や体験学習に活用する。

< スポーツについて >

- ・ 女の子のスポーツ振興をお願いします。
- ・ スポーツも偏らないで、いろいろな体験をすると頭がよくなるかもしれない。

< 学校について >

- ・ 学校で先生の笑顔をたくさん見たい。
- ・ 教師の精神的な弱さは体験不足によるせいではないか。
- ・ 家庭・地域の教育力も低下している現状では、学校がさらに意図的に場をつくるなど、学校が肩代わりせざるを得ない状況にあるのではないかと感じる。

< 計画について >

- ・ 木更津市のように、通学合宿など子どもの体験を増やす試みを行うことは素晴らしいが、そのためのリスクに対して行政の取り組みを充実してほしい。
- ・ 今後 10 年先を見据えた計画というが、もっともっと長いスパンで考えることも必要ではないか。
- ・ 「千葉市らしい・・・」ということで、世界、宇宙を眺める視点も是非加えてほしい。子どもほど大きな思いが理解できると信じている。
- ・ ボランティアも大切だが、三鷹市のように、有給の臨時職員を取り入れるほうが、地域での取り組みも活性化するのではないか。セーフティウォッチャーを含めて、ボランティアのみに依存するのは限界があると思う。

< その他 >

- ・ 大人同士、先生、子どもをほめることが大切。ほめながらコミュニケーションできればいい。
- ・ 親も子どもも先生もみんな忙しすぎる。ゆとりを持てるような生活をしたい。

- ・ 人間には必ず一人一人役割がある。子ども・先生・保護者・教育委員・それぞれ愛ある、思いやりのある人としての役割がある。
- ・ 「自分を大切にする」ということや「個性を伸ばす」ということは、ともすれば自己中心になりやすい。
- ・ 子どものためにいろんなことを頑張ってもらいたい。
- ・ 教育に関わる皆様、大変でしょうが、子ども達のためにどうぞ頑張ってください。
- ・ 先生方も子ども達も頑張っている。行政も頑張って。

学校教育推進計画区民説明会（中央区）意見・要望記録

平成20年7月26日（土）

総合保健医療センター

- 教員の採用と管理職の登用について、千葉市はどのように対応するのか。ぜひ厳正な対応をお願いしたい。
 - 教員採用選考については、千葉県と共同で行っている。市では、運営面における人的な支援や費用面での負担等において協力をしている。合否判定に関わる事務については県の所管で行っていただいております。千葉市は直接合否判定には関わっていない。試験の内容や選考の過程については、毎年見直しを行っている。例えば、マークシート方式の問題の処理は、第三者に委託している。論文についても、集計について第三者が行うようにし、教育委員会の内部の人間だけで行うことのないようにしている。また、受験生に試験の問題用紙の持ち帰りを認めており、解答例も公表している。受験者は、どのくらいできたのかを自己採点することもできるようになっており、本人からの開示請求にも応じている。二次選考の面接では、面接委員に民間の委員を起用し、教育委員会の人間だけでなく、多様な評価をしていけるようにしている。答案用紙については、県の文書規定に基づき、2年間保存をしている。今後更に透明性を高めていくため、「配点や選考の基準についてどの程度まで公表できるか。」といったことについて検討していくことにしている。事前の合否連絡についても、本市は合否判定に直接関わっていないため、現状ではそうした事例はない。管理職選考については、要綱・細則を定めており、その条件にあった方が志願することになる。そして、採点については誰のものかわからないようにした状態で、複数の人間が採点・集計をしている。一人の者に権限が集中することの無いようにし、恣意的なものが入らないように行っている。（教職員課）
- 教育を支える「家庭・地域」の教育が大切であろう。そちらにも目を向け、力を入れてほしい。
- 毎週水曜日、一軒家を子ども達に開放している。スケジュールの合間を縫って来た子どもが、私にけんかをふっかけてくることがある。そして、それをきちんと受け止めるか、どう返すか、といった様子を見ている。あと、今の子ども達はストレスをためていて、物を投げたりする。そして、反応を見て、慣れてくるとだんだんいい子になっていく。家や学校で、本当の姿を表現できていない。家でも学校でも、「いい子」を演じている。「思いやり」も大切だが、自分の思いや意見を表出し、言う訓練、相手の思い・意見を受け止める訓練が必要ではないか。問題を起こす子ども達は、自分の思いを主張できずに暴発してしまう。この計画の中に「子どもの権利」「人権」という言葉がないのが残念。一人一人の子が、「自分の持つ権利」「相手の人としての権利」といった人権意識を培っていく中で、自分も主張するし相手も受け止めるようになってほしい。規範意識も、「怖い人がいるから」というのではなく、「お互いが快適に暮らすためのルールを守りあうことが社会生活を成り立たせている」といった、本当の意味での規範意識が足りないのではないかと思う。
- 放課後子ども教室のコーディネーターを3年間行ったが、何のために行っているのかが現場に伝わっていない。初めは、学校と同じようなことをしなければいけないと思っていたが、試行錯誤を繰り返す中で、だんだん自由遊びをさせていくことが大切だということにたどりついた。今、問題だと思っていることは、ボランティアで来ていただける方があまりいないため、保護者に協力をお願いすることになってしまう。すると、第三の大人との出会いもなくなり、また、協力していない親の子ども

が来にくくなってしまう。すると、本来の目的からずれた方向に行ってしまうのではないか。また、いつも会っている人には、子どもも心を許してくれるようになっていくので、本当は同じ人が担当できれば子どもも落ち着けるのかなとも思っている。

- 放課後子どもプランに今年から参加させていただいた。自分のやっていることに自信がもてなかったが、今日のお話を聞いて、「これからもがんばっていこう」という気持ちがわいてきた。
- いつも怒ってばかりではなく、もっと遊ばせた方がよいと思った。
- 放課後、自由に遊べる方向でがんばっていければと思う。
- 「社会状況の変化」の中に「地球環境問題の深刻化」というのがある。子ども達に環境を考えさせるというのは、命を考えさせるという意味で非常に重要だと思う。環境に関する提言が計画の中にあるのか。
→今回は中間報告であるが、最終的なものの中には、環境教育に関することを入れていくようにしたい。(会長)
- このような区民説明会は、とてもよい取り組みだと思う。しかし、全体の概要やイメージは分かるが、中身がよく分からない。そうでないと議論にならない。もう少し具体的な話を聞きたかった。
- モンスターペアレントは、核家族になってきたことが大きな要因になっているのか。
→いろいろ複雑な問題があり、はっきりしたことは言えない。モンスターペアレントに関しては、教育委員会に顧問弁護士を置ければいいと思っている。校長・教頭だけでは対応が難しい。また、初期対応と、「最後は個人ではなく教育委員会が責任を持つ」という体制が大切であろう。モンスターペアレントは、関心の高い方であるため、ぜひサポーターになってもらえるようにしたい。(会長)
- この会に参加して、「遊ばせること」「子どもの主張を受け止めること」の大切さを感じた。親が学んでいくことが大切で、そうした機会があるとよい。
- モンスターペアレントやヘリコプターペアレントはいらない。また、その対極の無関心・給食未払い等の親もいない。学校と家庭の役割分担について、「しつけ」は学校ではなく家庭でやるべきだという部分もあるが、子どもがもともと持っている攻撃性や残虐性等については、家庭だけに任せるものでもないだろう。学校と家庭、学校と行政、学校と地域といった部分等について、具体的な施策がでてくることに期待したい。

千葉市学校教育推進計画区民説明会（中央区）短冊に書かれた意見・要望等

平成20年7月26日（土）

総合保健医療センター

<子どもへの願い>

- ・ 踏まれても、踏まれても、立ち上がってくる雑草のように育ってほしい。
- ・ 自分の思いを上手に表現できる子どもになってほしい。
- ・ シュートできる子どもが一人でも多くなりますように。
- ・ 夢を持ち続ける。チャレンジし続ける。
- ・ シュートを打てる子どもに育ってほしい。外したシュートをフォローできる社会になってほしい。
- ・ 何事も失敗をおそれず、積極的にチャレンジする子どもになってほしい。親も子どもに失敗させないようにするのはではなく、失敗したときに、一緒に考え、アドバイスできる親になりたい。

<教育環境>

- ・ 指示待ちではなく、自ら学ぶ力をつけ、生涯にわたって学べるように、学校図書館を充実し、図書館利用教育を段階的に実施する。科学館、図書館、博物館等各種教育機関を活用する。そのために、予算を確保すること。
- ・ 子どもたちの意見や考え方が伝わるような教育現場でありますように。
- ・ 教員には一人一台のパソコンが貸与されていない。これでは事務に時間がとられ、子どもにつけないのではないか。教員に一人一台のコンピューター貸与を。
- ・ 教育への予算を充実させてほしい。
- ・ 特別支援教育にもっと予算をつけてほしい。
- ・ 問題を抱えている学級は、校長・保護者の要望により、二つに分けて授業を行えるよう、増置教員を派遣してほしい。
- ・ 給食未納の保護者に対して、今後どう対応していくのか。
- ・ 千葉市の学力レベルが全国平均を上回っているのは、塾や習い事をしている子どもたちが成績を上げているからだと思う。そうしなければ、上位にいけない現状がある。
- ・ 授業時間の延長を図るべき。
- ・ シュートを打つ力（決断力と実践力）は社会人としても重要となるので、子どもの頃から訓練する環境が必要。

<子どもの遊び、居場所等>

- ・ たくさん遊ばせてあげたいのに、子どもが安心して遊べる場所がないことが一番の不満。
- ・ 子どもの遊び場がほしい。
- ・ 子どもたちがのびのびと遊び、その中から互いを思いやり、コミュニケーションをとることを学んでいけたらいいと思う。もっと仲間を温かく見守り、失敗を責め合ったりするのはではなく、互いに向上しあうような人間性を育てて、みんながシュートをどんどん打てるようになるといいと思う。
- ・ 子どもを外で遊ばせたいが、遊べる場所がない。空き地の開放をしてもらえたらうれしい。
- ・ 今更、PCや携帯をとりあげるわけにはいかない。遊ばせるにはどうしたらよいか。何もないと遊べない子どもが多いと思う。

- ・ 子どもが安心して遊べる社会。

< 家庭教育 >

- ・ 家庭が多様化する今は、子どもよりも親が学んだほうがいいのではないか。
- ・ 家庭教育力の充実
- ・ 今の時代、子どもに冒険をさせられない。危険だという情報に親は振り回され、つい子どものやることに手を出してしまう。いけないと思いつつ、子どもの力をつぶしているように思える。子どもたちに自分で考えさせ、自分で決めさせなければいけないと思った。
- ・ 自由で、のびのびとした思いやりのある子どもに育てたいと思いながら、わが子を受け止めていなかったことに気づかされた。
- ・ 本日説明会に参加できて良かった。親として振り返って反省できた。
- ・ 家庭に、モンスターやヘリコプターはいらない。無責任、無節操な親もいない。では、どうするのか。

< 学校教育推進計画について >

- ・ 教育目標が全てだと思うので、是非実現してもらいたい。
- ・ 区民説明会の実施は良いと思うが、具体的に何をするのか、させるのかを示す方がよかった。
- ・ 事務局による具体的な説明時間を多くして欲しかった。
- ・ 行政に不変の教育方針を策定してほしい。
- ・ 少人数のクレマーより、大多数の物言わぬ人々に目を向けた施策をお願いしたい。
- ・ 画期的な取組みを実施してほしい。組織にとらわれない教育を検討してほしい。
- ・ コミュニケーションの力を育む教育に力を入れて欲しい。
- ・ 子どもの人権を大切に。働くものの権利や政治の教育の充実を。
- ・ 中学校受験をせずに、学区の中学校に入学したくなるような魅力ある学校づくりをお願いしたい。
- ・ 千葉市の学力状況が目標通過率を上回っている表をみても、その実感がわからない。私立中学や中高一貫校に期待してしまい、公立小中学校に対して信頼が持てない気がする。そのための区民説明会は大事だが、もう少し具体的に説明してほしい。
- ・ 一人一人の子ども、それぞれの個性を尊重し、その個性を伸ばしていけるような教育づくりを。
- ・ 子どもの教育は人間関係や心の教育が大切である。社会生活や団体生活を行う上での人間関係の育成をどのように実施すべきであるか検討すべきである。
- ・ 規範意識の向上が学校教育の充実のキーポイントだと思う。

< 地域との連携 >

- ・ 学校・地域・家庭の連携を強める。
- ・ 生実地域は、地域が子どもを育てることを目標にして、地域のイベントをたくさんやり、できる限り子どもの参加を募り、親子で楽しんでいる。
- ・ 大人の町内会及びPTAへの積極的な参加と、子どもたちのための子ども会への参加が薄くなっているために、地域社会の形がなくなっているように思える。少子化を考慮すると、子ども会の結成率の向上と、活動面における学校との連携が必要となると思う。
- ・ 親以外の第三者の大人からの一言は、子どもにとって、とても大切だと思う。良い第三者になりたいと思った。
- ・ 「シュート」を打てる子どもを、放課後子ども教室等を通して育てていけるよう努力したい。

< 社会教育 >

- ・ 子どもたち一人一人が将来に希望が持てる社会づくりを。
- ・ 子どもの教育は、学校のみで行うものではないため、学校教育の中では限界がある。学校で行うこと、家庭で行うこと、地域で行うことが必要となるため、社会全体での課題である。よって教育委員会での実施には限界がある。
- ・ 非常識な大人が多い中で、子どもの心を育てることは難しい。

< その他 >

- ・ 文科系、運動系共に、部活動の充実を図って欲しい。
- ・ 千葉市の「子育て支援」で、市民に子どもを大切にする雰囲気はできてきたが、子どもに甘えもでてきてしまう。同時に教育もしっかりしないと、しっかりした人材にならないと思う。
- ・ 親楽し 子ども苦労し 孫乞食 ひ孫の代の来ぬことを知る
- ・ 子どもがたくさんいることで、親の負担が多くなる傾向がある。千葉市の教育が、心身ともに健全な子どもの育成に効果があるよう願う。
- ・ 問題がおきたときに、学校がどの程度相談に乗ってくれるか不安がある。
- ・ 学校で勉強しているのに、塾に行かなくてはならないことに疑問がある。
- ・ 子どもの気持ちを受け止め、見守ることのできる大人になりたい。
- ・ 親が変われば子どもも変わる、教師が変われば子どもも変わる、という気がする。親や教師の意識改革のため、今日のような明石先生のお話を広めてほしい。
- ・ 青少年相談員の年齢制限は45歳だが、45歳以上の方も相談員として認めて欲しい。
- ・ 明石先生のお話を聞けて有意義だった。
- ・ 目標が頭で達成するのではなく、自然に出ますように。
- ・ 子どもたちに本を読む楽しさを教えていこうと思う。

学校教育推進計画区民説明会（花見川区）意見・要望記録

平成20年7月27日（日）
花島コミュニティセンター

- 遊びは重要。NPOで授業を持たせてもらうことがあり、子ども達から直接悩みごと等を聞くこともあるが、スケジュールに縛られている子どもが多いことに驚かされる。幼稚園生でも同様。7つの視点の中に「学びの保証」とあるが、「遊びの保証」が必要。そのくらい子ども達は危機的状況にあると思われる。そのためには、家庭・親だけではなく、地域ぐるみで保証していかななくてはならないだろう。親は、「学び」についてはすぐに実行に移すが、「遊び」については実行に移さない。だからこそ、行政等の働きかけが必要だと思う。
- 第一回目の青少年相談員をやった際、各地域に子ども会をつくる活動を行ったが、いつの間にか消滅してしまった。今は庭先などから子どもの声がなくなってしまった。「親が子どもと一緒に庭先で遊ぶ」といったことが大切ではないか。
- 子ども教室に関わっている。先ほど雲の上の理想のような話もあったが、現実の一部のボランティアが資金等のない中で何とかやっている状況である。理想と現実のギャップを感じている。学校に何かを提案しても、予算的に厳しいらしくなかなか実現しない。どのくらいの予算が何に使われているのかも不透明。この夏休みには、プールの開放もなくなってしまった。
- 子どもの遊びは大切。しかし、サッカーや野球をやらせたくても行う場所がない。そうした整備をしてもらいたい。また、雨の日の遊び場もない状況である。
- 地域子ども教室を担当している。週1回の活動を行っているが、今自分が行っていることについて、本当にこれで効果があるのかどうか葛藤している。参加している子ども達は楽しそうにしているが、今後どのようにしていくかが課題である。
- 放課後こども教室は、あまり効果を期待してはいけなさそう。週1回の活動で、参加しているのも一部の子どものみである。子ども達に関しては、「シュートのうてない子」を実感している。また、近隣の中学生をみていると、愛情に飢え朝食もとれずに右往左往しているように思う。小学生までは地域で支えることも可能だが、中学生になると部活等の盛んな学校とそうでない学校との差が大きく影響してくる。施設等の環境といった最低の土壌は、各学校区で差のないようにしてほしい。
- 子どものことを考えるときには、子どもの声を聞きたい。意識調査で、「どんな親や先生であってほしいか」といった子どもの純粋な願いや本音を聞いてみたい。
- 学校の図書館指導員も、小学校は週2回になってしまった。これからを担う子ども達のために、予算を確保していただきたい。そして、より多くの日数の配置をお願いしたい。
- 予算の使われ方という点については、まだまだ精査が足りない面もあるだろう。ぜひ、有効に活用してほしい。

- 校長が早く代わりすぎ。2年程度では、地域との連携もうまくいかないだろう。校長・教頭は5年くらいの任期にし、地域との連携を図っていく必要がある。
- さまざまな観点からの目標が盛り込まれており、心強く思う。さらに、「子どもの人権教育」という視点が入るとよい。「自分はいるだけで大切な存在である」ということを一人一人が認識することで、いじめなどの問題についても解決していく土台ができていくのではないかな。
- 学校の先生方は本当に大変そうで忙しくしている。それをサポートする体制があるとよい。
- 中間報告の冊子を見て、とてもよくできていると思う。しかし、「言葉としてよくできている」ということだけでなく、この後どのように具体化されていくのかが大切。
- 「不登校児童・生徒の学びの充実」とあるが、様々なことが整備されないと不登校はなくなっていないだろう。例えば、不登校の児童・生徒数を見ていくことによって、千葉市の教育の充実度も分かるのではないかな。
- 言っていることはもっともだと思うが、予算が伴っていない面があるのではないかな。厳しい状況ではあると思うが、予算が減らされるのをくいとめ、増やす努力をしてほしい。

千葉市学校教育推進計画区民説明会（花見川区）短冊に書かれた意見・要望

平成20年7月27日（日）

花島コミュニティセンター

<子どもについての願い>

- ・ 自分のことを好きになれる子どもを育ててほしい。自分のことが好きになれば、他人のことも思いやれるし、大切にできると思う。
- ・ 自由時間を作ってあげてほしい。
- ・ 底上げをはかってほしい。
- ・ もっと中学生に夢を持たせる。中学で夢がしぼんでしまう子どもが30%くらいいるのではないかな。
- ・ 自分の力で考え、行動のできる子どもになってほしい。
- ・ 20年くらい前からの文化の進歩により、遊び場が変わり、今の子どもたちは健全な心身にかけているようでかわいそう。親としても接し方に悩むことが多くなった。中学校内の部活数も少なく、子どもたちがのびのびできる状態が少ないことも「遊び心」にかけてしまう一因だと思う。
- ・ 規律の守れる子どもに育ててほしい。その見本となる親や地域の大人であって欲しい。

<地域との連携について>

- ・ 大人の教育を受け、少しでも地域の子どもの還元していきたい。
- ・ 地域の中の子どもは地域で育てたい。
- ・ 子ども会が活発に活動していたころの、子ども会会長は立派な大人に成長している。今でも声をかけてくれて、感動を覚える。
- ・ 地域リーダーとして、中学校の花壇づくりの活動をしているが、考えされることがある。
- ・ 中学生の力を借りて小学生の放課後を豊かにするとか、高校生や大学生の力を借りて、中学生を活発にするとか、子どもたちにも力を借りて、それを大人がサポートできればいい。
- ・ あるものを活用していく考えから、地域の高齢者や大学生をボランティアとして、どんどん学校に関わってくれるシステムを充実させたい。
- ・ 地域の大人として、この教育改革に関わっていけるよう努力していきたい。
- ・ 地域のボランティアを更に増やそう。
- ・ 具体策を提示してあると、具体的な意見がもっと出るのではないかな。（例：家庭、地域で「朝読み、夕読み」等）
- ・ 放課後の居場所づくり等、地域のとかかわり方についての施策が中途半端。

<家庭について>

- ・ 親の教育ということについても必要性を感じる。
- ・ 学力と生活習慣との関連で、朝食をお母さん方に必ず作ってあげて欲しいと思った。
- ・ 家庭力をどうアップするか。

<学校教育推進計画について>

- ・ 調査項目の子どもの将来像の中で、下位にあったものは重点的に考えてシステム化すべき。
- ・ 「安心して失敗できる環境づくり」に専念してほしい。

- ・子どもたちのチャレンジする心を養うためにも、失敗してもまたトライできる場面や体制を作っていくべき。
- ・学校教育に関する貴重なお話を聞けたが、もっと現場に浸透することを希望する。
- ・市内の教職員は、今回の「推進計画のあり方」についてどれほど理解しているのだろうか。是非先生たちに理解してほしい。
- ・ハード面よりソフト面での教育現場を支援できる施策を打っていただきたい。
- ・今後10年かけて、この理想的な教育改革がどのように実現されていくのか、しっかりと見ていきたい。
- ・スローガンばかりで具体的な事業がみえない。もっと早く具体策の提案をしてくれないと、意見の出しようがない。
- ・具体的な施策・方法がとても大切。今の案ではあまり見えなかった。
- ・「わかる授業・楽しい教室・夢広がる学校づくり」と長年掲げられているが、効果があるものが不透明。実績のあるものにしてほしい。
- ・懇話会委員20名のうち、女性は何人いるのだろうか。
- ・計画策定の7つの視点は、目標が高すぎる。もっと現状を見たほうが良い。

<子どもの遊びや居場所等について>

- ・大人が作る場でなく、子どもたちが自ら考え、行動できる時間と場所ができれば良いと思う。
- ・土日の子どもの居場所について、少ない子どもを争って集めている現状がある。統一的な活動も必要だと思う。
- ・子どもが、伸び伸びと遊べるスペースが欲しい。
- ・児童館（子どもが自由に遊べて、体験を重ねられる場所）を作してほしい。
- ・学校の校庭を開放する等によって、子どもたちの放課後の過ごし方が変わらと思う。夏休みも、学校があれば、放課後がゆっくりできて、遊ぶ時間が増えるのではないかと。
- ・放課後や土日など、遊び場の提供として学校開放してほしい。
- ・親も子どもを遊ばせたいと思っているが、公園は不審者、道路は危険……。遊ばせる場所がない。
- ・学校・地域・家庭での子どもの居場所確保
- ・地域と子どもに、もっと学校や公共施設を夏休みや休日などの活動場所として開放してほしい。
- ・「自ら考え、自ら学び、自ら行動できる力を育む」ためには、遊びの保証が必要。一家庭だけでは実現できない。
- ・子どもの遊び、子どもらしい考えを伸ばすには、社会が子どもに何を期待するかにかかっている。入社試験、入学試験の内容もおのずと変わっていくのではないかと。
- ・わくわくキャンパスについて、始まった当初は子どもを参加させ、自分もボランティアをしていたが、仕事をしているため、ボランティアが負担で子どもをやめさせた。親も忙しいので、違う運営方法を考えて欲しい。

<教育環境について>

○施設整備等について

- ・校舎の改修にあわせて、校庭の遊具の充実を図ってほしい。
- ・地域によって差がでないように、施設や設備の拡充を図ってほしい。
- ・スポーツの持つ力をもっと充実させるべく、環境整備の充実を図って欲しい。
- ・安全・安心な学校施設の保障。

- ・ 未来を担う子どもたちのために、人と金と環境を整えてほしい。
- ・ 千葉市では体育施設（学校、公共施設除く）を利用するのにお金がかかる。地域で子どものスポーツ教室をボランティアで行おうと思っても難しい。
- ・ 学校のプール指導が少ない気がする。以前は学校で学べたが、今はスイミングに通わなければいけない状況である。
- ・ 各教室にエアコンを設置し、費用は保護者に負担してもらおう。
- ・ 図書室にエアコンを設置し、平日はもちろん、夏休み中も、子どもたちが読書や学習に活用できるようにしたい。
- ・ 学校施設を夏季休業中に開放し、読書活動の場にしたり、プールを開放して学生や教員による指導をしたりするなど、施設の活用を図って欲しい。大人のスポーツ開放は光熱水を使用しているので、料金を支払うべき。
- ・ 子どもが本を読む機会が減っていると思うので、徒歩圏内に図書館が欲しい。学校の図書室は利用しているが、夏休みなど長い休みは数日しか利用できない。

○教員等について

- ・ 学校の先生を、1つの教室に2人教員にできたら嬉しい。
- ・ 教員の給与をあげることが、教育の質の向上につながる。教員が誇りを持って、安心して職務に専念できる給与を保証してほしい。
- ・ 先生方の雑務が多すぎて、やりたいことができていない一方、管理職クラスは穏便に済ませたがることが多い。先生の負担軽減ともしっかりと挑戦できる先生の採用、学校の体制づくりを求める。
- ・ 授業の中で体験できるものを増やしてほしい。
- ・ 全ての子どもたちに「自信・安心・自由」を届け、保障したい。あらゆる暴力に対する予防教育、人権教育を行政の側からサポートしてほしい。
- ・ 専科がいる学校といない学校がある。平等に配置してほしい。

○教育予算について

- ・ 予算のかからない教育活動の考案が必要と思われる。方策を考えてほしい。
- ・ 苦しい財政状況はわかるが、何とか教育予算を増やす努力をお願いしたい。
- ・ 良い計画を作っても予算がないと難しい。
- ・ 本当に必要なところにしっかり資金を投入してほしい。
- ・ 予算はメリハリをつけて。図書については、全体枠を小中学校で使うなんてナンセンス。
- ・ 青少年の今後のために、予算の削減をしないでほしい。
- ・ ボランティアに依存する事業ではなく、必要なものにはきっちりと予算をとり、システムが効果をあげるようにしてほしい。
- ・ 子どもの未来のために、予算の獲得を。

<その他>

- ・ もっと普通の保護者の方も聞きにくると思った。
- ・ 区民説明会に参加できて、多様な意見を聞くことができた。
- ・ わくわくキャンパスのことやプール開放がなくなってしまった理由がわかって良かった。
- ・ 明石先生や他の方々の意見を聞けて、とても参考になった。ありがとうございました。
- ・ 子どものために。

- ・ 「二学期制」開始時は、夏休み・冬休み前後でも5時間しっかり授業があったのに、いつの間にか短縮になった。保護者面談も夏休み中に行われていたものが、4日も短縮になって平日に行われている。秋休み前後も短縮であり、子どもの授業の質が心配。隣の学校ではきちんとやっているようだ。市内で違いがあるのは不満である。
- ・ この会を含めて、イベントや事業の周知方法にかなり問題がある。関心のある人の目に留まるようなメディアを活用してほしい。
- ・ 子どもは、親や周囲の大人を見て育つ。大人が日々夢を持って元気に生きている姿を示せば良いと思う。
- ・ 授業時間数確保や学習指導要領による理科等の時数の増加により、夏季休業期間が短縮される地方自治体が増えているが、千葉市はどうか。
- ・ LD・ADHD等特別支援教育の推進が重要。相談員は心理の先生を学校に配置することが大切。
- ・ 特別支援教育がスタートしたが、支援の必要な児童一人に対して、一人の教員を配置することができるとなっているが、現状は難しいと聞いている。全ての子どもにあった教育ができる教育環境、システムを希望する。
- ・ 地域の大人として、CAP（キャップ）を授業に取り入れてほしい。